

EPS「スマートクーリングコンテナ」

EPS は発泡スチロール(Expanded Poly-Styrene)の略称です。

超軽量パレットをさらに進化させた“異なる温度帯の荷物”の“混載”を可能にしたコンテナです。

『EPSスマートクーリングコンテナ』は、小ロット貨物の積載問題を解決し、積載効率が改善されることで

①輸送時の運賃コストを低減させることが可能 ②Co2排出改善も可能です。



GOOD PACKAGING 2020 日本パッケージングコンテスト
包装部門「輸送包装部門賞」受賞

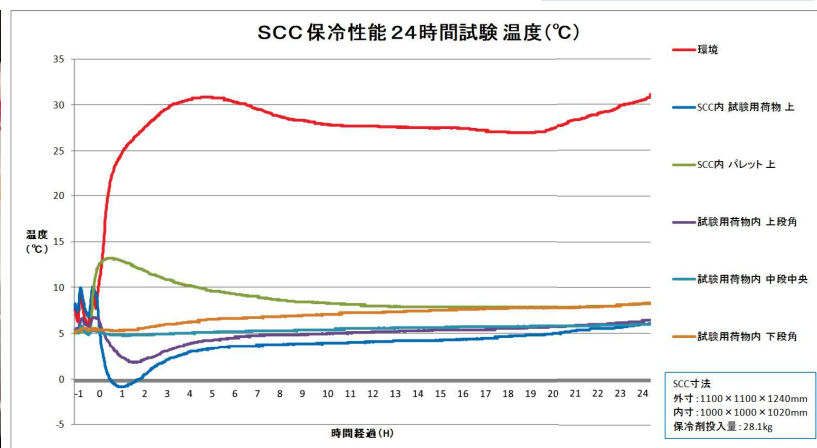


➤「EPSスマートクーリングコンテナ」の特長

特長① <保冷>

保冷剤をセットすることで長時間輸送でも保冷効果を発揮

【社内試験結果】
環境温度30度で24 h 経過、
5～10℃をキープ



試験項目	環境	SCC内試験用荷物の上	SCC内パレットの上	試験用荷物 最上段角	試験用荷物 中段中央	試験用荷物 最下段中央
24時間後温度(℃)	31.10	6.10	8.20	6.40	6.00	8.30

特長② <使い勝手の良さ> 組み立て式でコンパクトな収納を実現



3段サイズをばらすと、大きさは**約3分の1**と、とてもコンパクトになります。



※組立式なので使用しないときはコンパクトになり、保管時の省スペース化を可能になりました。
また組み立て作業時間は“約 3 分”手軽に組み立てができる“使い勝手の良さ”もあります。

<組立ての流れ>



特長③ <使い勝手の良さ>

貨物の容量に合わせ、コンテナは3段階で調整可能

1 段

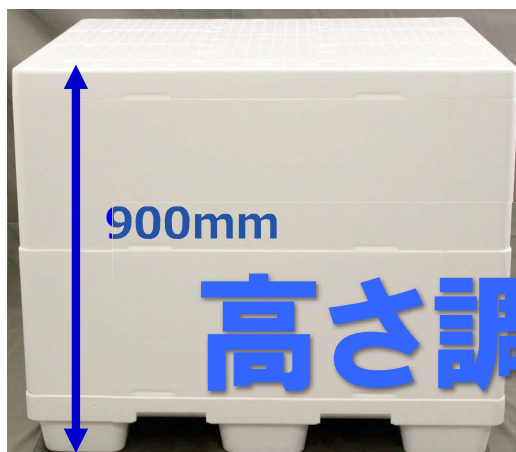
自重 約 4 kg

2 段

自重 約 5.5 kg

3 段

自重 約 7 kg



高さ調整可能！

段数	外寸(mm)	内寸(mm)
1 段	1,100×1,100×560	1,000×1,000×340
2 段	1,100×1,100×900	1,000×1,000×680
3 段	1,100×1,100×1,240	1,000×1,000×1,020

特長④ <使い勝手の良さ>

フォークリフト作業も可能



➤「EPSスマートクーリングコンテナ」の採用事例

● 茄子一時保管



茄子の収穫後の一時保管
前日夕方収穫が可能になり作業時間改善

● 花の輸送



花を市場から店舗までの輸送

● 保冷輸送



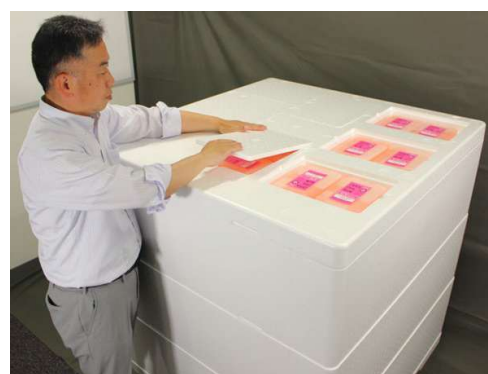
冷蔵車内での冷凍輸送
5℃の冷蔵車内で-5℃を16時間維持

● 海外への保冷製品の混載出荷



➤「保冷剤設置例」

「コンテナ内部だけではなく、天面にも設置可能です。
～お荷物の状態(冷凍、予冷)に応じて、保冷剤の必要量も提案



EPS「スマートクーリングコンテナ」

EPSは発泡スチロール(Expanded Poly-Styrene)の略称です。

➤ 輸送資材として注目されています。

● 異なる温度帯の混載用コンテナとして、農産物の輸送実験に協力

● 富山新聞 (2020年2月8日)

● 北日本新聞 (2020年2月8日)

輸出促進へ輸送実験
北陸の農林水産物 冷蔵、冷凍混載へ
地方整備局

北陸地方整備局は、北陸の農林水産物や食品の輸出促進に向け、冷凍品と冷蔵品を同じコンテナで輸送する実験に乗り出した。事業者が低コストで輸送できる

北陸地方整備局は、北陸の農林水産物や食品の輸出促進に向け、冷凍品と冷蔵品を同じコンテナで輸送する実験に乗り出した。事業者が低コストで輸送できる

同局によると、北陸の農林水産物はコンテナを満たすほどの輸送量を確保できない場合が多く、太平洋側の港から他地域の貨物と一緒に輸出している。冷凍品と冷蔵品が混載可能になれば、十分な量を確保

保し、北陸から直接出荷できるようになり、事業者のコスト削減につながる。同日は富山市の高岡冷蔵富山工場で、作業員が冷凍シロエビなど7品を氷点下18度のコンテナに積み込んだ。日本酒やみそ、ゼリーといった冷蔵品は凍結を防ぐため、特殊な発泡スチロールや段ボールで包装された。10日に伏木富山港を出発し、ベトナムのハイフォン港に23日に到着後、ハノイ市内の商店に輸送される。

国交省
北陸の農産物 輸出促進
ベトナムへ 伏木富山港活性化狙う
輸送実験

北陸地方の農林水産物の輸出促進のため、国土交通省は小口の冷蔵・冷凍品を一つのコンテナにまとめて、伏木富山港からベトナムに運ぶ輸送実験を実施する。品質の保持や通関手続きのスムーズさを検証した上で、利便性をアピールして同港の活性化を目指す。7日は富山市の公設で、コンテナ積み込み作業を行った。北陸地方の農産物は、太平洋側の港から集荷されたものを輸出されるケース。実験には、非効率的な体制を解消する富山県産品の輸送が目的。

北陸地方の農産物の輸出促進のため、国土交通省は小口の冷蔵・冷凍品を一つのコンテナにまとめて、伏木富山港からベトナムに運ぶ輸送実験を実施する。品質の保持や通関手続きのスムーズさを検証した上で、利便性をアピールして同港の活性化を目指す。7日は富山市の公設で、コンテナ積み込み作業を行った。北陸地方の農産物は、太平洋側の港から集荷されたものを輸出されるケース。実験には、非効率的な体制を解消する富山県産品の輸送が目的。

扱っている魚津市やトホ工業大坂市が協力し、コンテナ内で冷凍品と冷蔵品を混載できるような梱包方法を工夫した。この日は高岡冷蔵富山工場(富山市西二俣)でコンテナへの積み込みを行い、関係者約20人が作業を見守った。

田崎クルーズ振興・港湾物流企画室長は「生産地に近い港からの輸送促進につながる」と述べ、山文の松村光輝社長は「小口でも輸出が容易になれば、東南アジアという大きなマーケットの開拓につながる」と話した。

山港を出発し、韓国経由で23日にベトナム・ハイフォン港に到着予定。同省はコンテナ内に湿度や温度、揺れを測る記録計を設置し、コンテナ管理の状況を把握する。通関手続きが順調に進むかなも調べ、事業化が可能かどうかを検証する。

● 富山チューリップニュースより (2020年2月7日)

